

# 開発した教材 異国の子供たちに

フォーカス  
West

## タマインベストメントエデュケーションズ

タブレット（携帯端末）の映像を見ながら楽しんで学習できるICT（情報通信技術）教材の企画開発・販売を手がけ、事業を拡大している「タマインベストメントエデュケーションズ」。2014年にはインドに支社を開設するなど、グローバル化も進んでいる。

同社が開発した「玉井式国語的算数教室」は、小学生の算数問題を愉快的な物語にし、それを読むことで読解力を高め、論理的な解き方を身につけていく仕組み。タブレットを使って動画（アニメーション）を見ることで、生徒たちの理解は一層深まる。

情報通信技術の時代を先取りした効果的な授業は、口コミで評価が急上昇。玉井満代社長＝



写真＝は「教材クリエイター」としても、全国各地の教育講演会

に引っ張りだこの毎日だ。

玉井社長は1996年、夫の実家がある和歌山県田辺市に転居したのを機に、地元で学習塾「玉井教室」を開いた。中学受験を控えた小学生らを対象に教えていたある日、玉井社長が算数の

本 社 京都市中京区烏丸通四条上る笋町688  
第15長谷ビル5F（京都経営企画本部）  
電 話 075・708・8100  
資 本 金 300万円  
創 業 2001年7月  
事業内容 ICT（情報通信技術）教材の企画開発  
・販売、学習塾の運営、企業・教育関係者・教員の研修

文章問題を出したところ、ある小学生が「先生、やり方を忘れました」と返事をした。

それは玉井社長にとって衝撃だった。「授業では植木算やツルカメ算などを教えたが、子供たちは公式をただ丸暗記していただけ。公式を忘れたらできなくなる算数の教え方はよくないのではないか」と自問した。

そこで物語を創作し、その中に算数の問題を組み込んだ。公式を覚えるのではなく、「なぜそうなるのか」を教えたところ、生徒たちが次々と進学校に合格、評判を呼んだ。

玉井社長はテレビ番組の制作会社に就職し、脚本家として仕事をした経験がある。物語を創作するプロでもあり、子供たちの好きなキャラクターが登場する空想の世界を創り上げるのは得意だった。「くしくも脚本家

の経験が授業で生きた」と振り返る。

これまでに創作した物語は小学1～3年教材用で約100話。関連する宿題やテストも一話完結の物語仕立てだ。教材は「国語的算数」のほかにも、玉井式「図形の極」シリーズを開発している。

開発当初の動画はDVDだったが、現在はネットワーク経由のクラウドサービスで配信。600以上の教室で、計1万人以上の生徒たちが玉井式を活用しているという。

同社には教材をセールスする営業担当者はいないが、教材は学習塾の間などで口コミで広がった。玉井式で学ぶ生徒だけでなく、保護者も教材を歓迎したことが事業拡大につながった。

玉井式の教材を導入する塾には、講師向けの研修会も開く。

愉快的な映像を見ながら学ぶ「玉井式」の授業



研修は「子供たちの感性を豊かにし、世界観を大切に」などのコンセプトの説明から始める。教材の音声にはコンピューターの電子音を使わず、玉井社長が考えたせりふを声優らが話すなど、子供たちの感性に訴えかける工夫も凝らす。

玉井式は国内だけでなく、インドの公立小学校でも採用されており、玉井社長は現地でも指導にあたる。首都デリーには、玉井式を教える直営塾を開校するなど、国際交流にも積極的に

取り組んでいる。

今春ミャンマーに設置する保育園には、ICT教材を寄付。日本語版も提供し、幼い頃から日本語に触れてもらう機会を提供している。保育園は今後も順次、増やしていく計画だ。

「玉井式がグローバルな教材であってほしい。開発した教材が遠く離れた異国の子供たちに役立つと思うとわくわくする」と玉井社長。教育事業にかけると夢は世界に広がる。